



ワインのスペシャリストからも
応援メッセージをいただきました



株式会社中川ワイン 代表取締役

中川 誠一郎 氏

世界の頂点を目指す——カリフォルニア州ナパ&ソノマのワイナリー・オーナーやワインメーカーたちには共通の夢があります。私は、その夢に共感して彼らが造るワインを輸入・販売しています。郡山でのプロジェクトもまた、復興と新たな夢への挑戦です。中川ワインは、それらのワイナリーと連携してこのプロジェクトを心から応援し、協力を惜しみません。



『京都吉兆』嵐山本店 総料理長

徳岡 邦夫 氏

世界文化遺産である日本料理の料理人として、私は伝統を守ると共に新しい創造に取り組んでいます。日本の歴史・風土が生んだ日本料理には日本産の酒が最適です。このたびの郡山でのプロジェクトが、和食にピッタリの最高のワイン造りを実現できるよう、私は大いに期待し、応援していきたいと思います。がんばれ日本料理、がんばれ福島・郡山ワイン&リキュール!



国際ソムリエ協会会長(1995年A.S.I.世界最優秀ソムリエ)

田崎 真也 氏

私は、いかなる仕事も「サービス業」であると考えます。相手の立場になり、何を望んでいるかを見極め、状況に応じて適切な答えを提供する—ソムリエの仕事も同じです。今回のプロジェクトは、復興支援の一環としての、福島産果実を使った醸造事業と伺いました。近い将来、この素晴らしいワインを多くのかたがたにサービスできる日を楽しみにしています。



ふくしまから
はじめよう。

Future From Fukushima.

果樹農業 6次産業化 プロジェクト

郡山市

 三菱商事復興支援財団

ともに前へ、 ともに明日へ。

東日本大震災からまもなく4年を迎えます。

郡山市は、震災の影響により急速に減速した農業、観光業等産業の復興を図るため、被災した農地や施設等の復旧と販売促進活動、事業再建に向けた支援、教育機関と連携した農業の担い手育成等に取り組んできました。

三菱商事復興支援財団は、大学生への奨学金やNPOへの助成金、再建を目指す被災事業者への投融資などを通じて、復興支援に取り組んできました。

しかし福島復興はまだ道なかなです。

そこでこの度、郡山市と三菱商事復興支援財団は、福島における農業のさらなる振興を目的に、果樹農業の6次産業化プロジェクトを立ち上げることにしました。

「果樹王国 福島のおいしい果実を作る農家の皆さまの想いを伝えたい」

「おいしい果実をさらに活かして、地域に新しい産業モデルを創りたい」

ともに前へ、ともに明日へ。

私たちは、農家の皆様をはじめ地域の方々とともに、
福島の復興に向けて前進していきます。



事業目的

本事業は、福島県産果実の生産、加工、販売といった事業を一連のものとして構築・運営することで、
「地域と連携し、福島における果樹農業の新たなモデルを創る」
ことを目的とする。

① 1次産業（農業生産）

- ・現状、安価で取引されている規格外の生食用果実（品質に影響はないが型崩れやキズのあるもの）の利活用を図る。
- ・福島県ではまだ少量しか生産されていないワイン用ぶどうの生産農家を育成する。

② 2次産業（加工）

- ・地元の果実を原料とした加工商品（ワイン・リキュール等）の醸造技術・ノウハウを蓄積する。

③ 3次産業（流通・販売・ブランディング等）

- ・製造された加工商品の販路を開拓する。

④ 6次産業化モデルの確立

- ・上記1～3を一連の事業として運営するモデル（6次産業化モデル）を構築することにより、福島県産の果樹農業をベースとした新たな地域産業を創出する。
- ・果樹産業の振興が農業分野における課題のひとつとなっている福島県において、地元自治体とも協働し、地域の果樹産業振興に繋がる形でモデル展開を目指す。

1次産業
(生産)

×

2次産業
(加工)

×

3次産業
(販売)

▶

6次産業

生産・加工・販売を一体化
⇒ 売上・所得の向上

事業全体像

